

■田口和美 医学者。わが国近代解剖学創始者の1人で、東京大学の解剖学初代教授で日本初の医学博士。

たぐちかずよし

蚕社の獄・・・1839＝ 武蔵国埼玉郡小野袋村藤畑郷で、漢方医田口順庵の長男に生まれる。

患者に貴賤の別なく接し、漢学の造詣深くて寺子屋を開くなど、信望厚い父のもとに育ち、

天保改革終・1844＝ 5歳：この年以降4年、毎年渡良瀬川の堤防が決壊する水害に、苦難への対処を身につけ、
阿部正弘首座1845＝ 6歳：

・・・・・・1848＝ 9歳：

父の後を継ぐべく、医術の道を志し、

ペリー来航・1853＝14歳：父の勧めで、江戸に出、医学学校兼病院で働きながら、佐藤一斎に漢学を、塩谷宕陰に蘭学を学んだ後、

蕃書調所・・・1857＝18歳：(順天堂創設者佐藤泰然の弟子で女婿となった)蘭方医林洞海の塾に入門、

安政の大獄・1859＝20歳：さらに蘭方医赤沢寛堂に就いた後、

桜田門外変・1860＝21歳：

遣欧使節・・・1861＝22歳：帰郷し、結婚。

生麦事件・・・1862＝23歳：長男が誕生。父が選定した下野国安蘇郡小屋町で、_医院を開くと、門前列を成すほどの評判、

薩長同盟・・・1866＝27歳：

明治維新・・・1868＝29歳：

戊辰戦争終・1869＝30歳：突然医院を閉じ、再び東京に出、医学学校兼病院に入り、ウィリス、ボードウィン、渡辺洪基らに学び、実習生として、日本初の篤志解剖に一部執刀、

初の日刊新聞1870＝31歳：*佐藤泰然の養子尚中に抜擢されて、少句読師になり、(医学学校兼病院改称)大学東校に出仕、中授読生に昇格後、脚気に罹り、尚中からハイツマン「解剖書」を渡され、佐倉順天堂で静養、解剖学に開眼して、

廃藩置県・・・1871＝32歳：大学東校に戻り、文部権少教授、ミュルレルの助手として信頼され、その意を汲んでラテン語も習得、

学問のすすめ1872＝33歳：解剖学科専務、大学東校が第一大学医学校と改称後、

明治6年政変 1873＝34歳：象牙で人体骨格模型制作し、ウィーン万博に出品。来日着任した解剖学の権威デーニッツから、高度な学と技術を伝授されるとともに、解剖所の管理に従事し、教育用の材料・遺体を集めるのに腐心、

初の民間工場1875＝36歳：_東京医学校解剖科専務、

三つの内乱・1876＝37歳：*初代教授となる。

西南戦争・・・1877＝38歳：「解剖攬要」起稿。_東京医学校が東京大学医学部となった後も、引続き教授として教室を主宰。

・・・・・・1880＝41歳：以降5年間、「人體組織攬要」を刊行。

明治14年政変1881＝42歳：第2回内国勲業博覧会に「解剖学及組織学標本」を出品。

新体詩抄・・・1882＝43歳：「解剖攬要」完結。_日本初の完全な人工体製作により顕彰。

秩父事件・・・1884＝45歳：正式な医術開業免許を取得。

この間、1699体の解剖経験を積んで、

帝国大学始・1886＝47歳：帝国大学医科大学となって、小金井良精が教授に就任。

国民之友始・1887＝48歳：「顕微鏡術攬要」成る。_官費を辞退して自費留学、ベルリン大学ワルダイエルに就き、助手も務め、

初の対等条約1888＝49歳：父が死去の報に続き、_日本初の医学博士の報を聞いて、

帝国憲法發布1889＝50歳：_帰国。

郡司千島探検1893＝54歳：講座制の実施で解剖学第1講座となる。*日本解剖学会を発足せしめ、初代会頭。以後毎年学術講演。

日清戦争始・1894＝55歳：

喉頭局所解剖、血管・神経の位置や破格・脳重量に関する研究があり、墨汁注入法の考案、梅毒の原因についても言及するなど、幅広く貢献したが、

Bushidou・・・1899＝60歳：勲三等瑞宝章。

ピアノ国産化・1900＝61歳：大沢岳太郎が解剖学の教授になり3教室となる。

教科書疑獄・1902＝63歳：第1回日本聯合医学会総会開催で、初代会頭に就任。

日比谷公園・1903＝64歳：体調悪いのをおして、第11回日本解剖学会に出席後、急速に衰弱、

日露戦争始・1904＝65歳：喘息発作で入院し、*東大教授のまま、没した。

大井莊次「北武蔵人物散歩」、